

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101758		
法人名	株式会社 桜会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム アクア		
所在地	熊本市南区八分字町22-1		
自己評価作成日	令和3年3月17日	評価結果市町村受理日	令和3年7月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和3年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

穏やかに、そしてできる限り制約されることのない生活をしていただくために自分で歩いていただくための支援を第一に考え行っています。2ユニットの広さの特徴を生かして自由に行き来できる環境を整え、また広い中庭にも自由に出ていただきお散歩を楽しんでいただいています。中庭も殺風景にならないよう家庭菜園を作り季節の野菜をスタッフで管理し、秋はさつま芋を植えそれを生かした近隣保育園との交流も行っています。また季節の花も入所者様のご家族よりいただいたものを植えご家族と共有できる話題作りにも努め良い関係性が築けるように努めております。制限しないことで生活レク、筋力運動、そして気分転換にもなり心身ともに健康で生活できるよう支援しております。その季節を感じていただけるような壁面飾りを行い、また毎日2ユニット合同で行うレクリエーション時に日付・現時刻・季節・所在地の確認を行っています。外出行事は少人数で安心安全に行けるように行っています。ご利用者様のしたいこと、望むことに傾聴や表情などで察し心身ともに健康にお過ごしいただきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して5年、100歳・101歳と高齢化傾向もある中で、100歳でも自立歩行される等理念を的確にとらえた日常を支援している。地域の中での生活がコロナ禍で制限される状況もあり、新たに中庭にアンツーカーを作り日常の散歩の他、保育園の運動会の会場となる等地域への還元も視野に取り組んでいる。入居者一人ひとりの状況を話し合い、食事時間を楽しむことを課題として座高に合うテーブル配置や食べやすい形態での提供等“個”に焦点を当てた支援等、より良いケアを全員で目指したホームである。新たに就任したホーム長も、今回の自己評価に真摯に向き合い改善点や課題を見出す等意欲的であり、これまでの経験や職員の得意分野(食支援等)を活かしながらの生活は生き生きとしており、今後も家族と連携を図りながら、高齢化しても楽しみのある生活を継続していきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今ある能力や歩行能力を一日も長く維持していただけるよう、リスクをとっていく介護、過介護にならないよう実践している。必要であれば個別トレーニングも行い能力の維持復帰するよう実践している。	開設時からの理念を掲示や唱和により意識強化を図り、自立に向け車椅子での退院に職員の気づきをもとにしたカンファレンス等をケアに反映させている。職員の過介護の無いケア、車いすを使わないケアを実践し、リスクについては見守りを徹底するとしている。超高齢化した(100歳)しても自立歩行される様子に、潜在能力維持に向けたケア姿勢が表われている。	コロナ禍の中で、職員が一堂に会することは難しいと思われるが、理念についての振り返りをされることで、更に高齢化・重度化するであろう入居者支援に反映させるよう期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・「姿勢の良くなる体操教室」の開催 ・近隣の保育園との屋外の交流 ・施設外においても一員として、振舞いにも気を配る	コロナ感染症による緊急事態宣言中は、これまで地域の体協からの情報提供による運動会やグラウンド大会等中止の状態であった。解除後に事業所独自で行う「姿勢のよくなる体操教室」を2月に再開し、人的・物的環境を地域への還元の一環としている。近くの保育園児との交流は継続し、芋掘りや保育園主催の「運動会」も事業所の園庭を活用し開催されており、世代間交流の役目を果たしている。	地域の情報や、ホームの持つハードが地域との交流促進に繋げている。コロナ禍に目処が立てば、これまでの地域との交流を再開されるものと期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	継続して行っている週3回の「姿勢の良くなる体操教室」により健康維持に対する啓蒙活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度会議を行っていたが、コロナウィルスの影響によりR2年4月より開催を見送っている状況。	地域包括支援センターささえりあと相談し、書面での開催として報告書を提出する体制である。地域包括支援センター以外の構成メンバーには報告書等は配布していない。また、家族に参加の声をかけている現状である。	開かれたホームとして、運営推進会議の資料を配付したり、委員からの情報リサーチの場やホームの情報発信源としてこの会議を生かされることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	監督官庁である市とは、綿密に連絡を取り合いご指導やご助言をいただいている。	日頃から報告や連絡等により適切なアドバイスを得ている。また、行政からもメールや電話による問い合わせや、コロナ感染予防対策等への備品や職員体制へのアンケート等のアンケート調査等も行われur等相互の協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	継続してグループホームの目的や役割をご説明し施錠や拘束をしない方針を理解してもらっている。その場面に直面した時にはその都度説明して理解してもらっている。職員の入職時には理念を通し、ホームの取組を伝え、身体拘束の指針をもとに拘束や虐待に対する姿勢を示している。中には玄関より外へ出ていかれる場面もあるが、そっと寄り添い共に散歩をする姿勢を示している。毎月の社内勉強会にて身体拘束について定期的に研修を行い共有を行っている。センサーマット、人感センサーは未設置。	身体拘束適正化委員会として運営推進会議を活用していたが、現在は個別事案についてカンファレンスを行うとともに、毎月勉強会により意識強化を図っている。外出傾向が高い入居者に一緒に散歩に出る等入居者個々の帰宅願望等を把握し、職員の何気なく使ってしまう言葉遣いについて随時注意喚起している。	幹線道路に面したホームであり、今後も入居者の所在確認を徹底いただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて利用者の権利擁護について学ぶ機会を設けている。カギをかけない介護、ドラッグロック、スピーチロックなどをしていない介護を基本としている。またグレーな介護についても自身で考える機会を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にて学んでもらうよう努めているが、成年後見制度に関しての研修も少なく、受講できない職員も依然として多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时、契約時に丁寧にわかりやすく説明している。疑義についても随時説明している。解約・改定等についても、十分に説明し、契約を締結している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が気軽に意見や要望が出やすいよう日頃からコミュニケーションをとりアンテナを張っている。申し出があった場合や家族からの感謝の言葉、嬉しい発見などあった時には全職員に伝達している。毎月のホームだよりは家族が自宅にいて入居者の近況を知る機会として楽しみにされている。なにげない表情やホームでの活動を様子を発信し、衣替えの依頼、預り金の残高などを報告している。管理者は家族からのお願いや時にいただく感謝の言葉を送り時に伝達し、職員の達成感にも繋がっている。	家族の訪問時や担当者会議時に望まれる事等を聞き取りしている。今年は家族会は開催できない状況にあり、毎月ホームからの手紙や、訪問時の状況を説明している。特に訪問されても対面の難しい状況に、ホームから密な連絡等コミュニケーションを図り、家族の安心感に繋げている。	コロナ禍という状況に、家族同士のつながりは困難であるとして、ホーム側からの情報発信とともに、意見等を聞き取りされている。このような困難な時期であるからこそ、家族との関係性が重要であると思われ、今後も情報を発信しながら意見や要望を収集していただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや勉強会時に職員の意見や提案を聞く時間を設けている。多数の意見も場合は迅速に対応、実践して修正、改めて実践し反映するように努めている。毎月の職員会議で運営全般にて検討している。毎朝・夕の申し送りがカンファレンスの機会にもなっている。意見を出しやすい環境なのでその都度気付きを出してもらい検討、申し送り時に報告、意見を聞き反映している。	朝・夕の申し送りや、勉強会（身体拘束等）の中で、業務について検討している。また、言い出しにくい案件については、個別に対応している。職員が遠慮無く言い合える関係性、チームワークの中で何でも言い合える関係の重要性を認識し、管理者の役割として職員が不安無く仕事ができるようフォローするとともに、職員の意見や提案をホーム運営に反映させるとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は長年の介護現場の経験を生かし、各自が向上心を持って働けるような職場づくりに努めており、給与水準や福利厚生の上には特に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修についてはできるだけ平等に受講の機会を設け、研鑽に努めている。また受講者に社内研修を行ってもらい職員のフォローアップと同時に受講者の理解向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流のなかなか出来ない状況にあるが近隣の地域密着型サービス事業所2か所とは互いに相談を電話にて行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族ともよく会話できており、利用に至るまでの思い、現在の思い、今後の要望から日常の世間話まで傾聴し関係づくりに努めている。世間話には思わぬ		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護経験よりも人生経験の長い職員が多く、入居者に近い関係性が自然とでき傾聴や気付きも行えており、利用者は入所後も早い段階で安心した生活が開始できている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学时本人、家族からの希望を十分に尋ね在宅生活ができる環境、支援が可能な状況であれば小規模多機能ホームの利用を提案し十分説明をする。また入居に至った際は、身体状況などにもよるが往診等の可能なサービスを提案する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりの残された能力を見極め、暮らし全般のできる事を最大限発揮してもらい共存している達成感を得てもらう。また入居者同士の協力関係も行えるように支援する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族の絆を大切にもらいために、家族の支援も大切である旨を説明し、共に支えていく関係の構築につとめている。そのため訪問時や電話でより詳細を伝え連絡相談し、共に考え家族の一員であるという意識を持てただけよう努める。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は立案するも実施には至らず。感染予防に努めながら、家族と連携して可能な限りで馴染みの人や場所に行き関係性を再確認していただけるよう努める。	家族の訪問はあるが、これまでのように馴染みの場所等への外出は難しく、行事の中で馴染みのある羽釜での炊飯や干し柿作り等支援している。また、開設当初からの入居者にとっては、ホームそのものが馴染みの場所となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別でも行うが集団での体操やレクリエーションを通して利用者同士の存在を確認し、協力し合うようなレクリエーションを企画して互いに認め支え合えるような場を設ける。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院により退所された方からご相談あり、すぐには入所できず、併設する小規模多機能ホームや他の施設を紹介し小規模を利用された方のようなケースあり。退院後の入所のご相談が多く小規模多機能ホームも提案したりと選択肢をもって丁寧に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	天気の話などから現在の暮らし方の満足度や希望などを引き出せるようにしている。コミュニケーションの困難な方は表情や言動から思いを推し量り、把握し共有している。	入居者の中には直接職員に訴える方もあるが、職員が回想法等を駆使しながら思いを引き出し、短い言葉(うん等)やうなずき等で確認しながら入居者の思いに応えている。また、表情や笑顔もバロメーターとして捉え、ニコニコされるとお好きなのかと推し測りながら支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からや情報提供書、認定調査時の情報の閲覧などで情報収集し把握に努める。また本人からも聞き出せるように時に誘導しながら想起できるよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別での会話や機能訓練、一人ひとりで出来る活動や作業を複数取り組んでもらい、今ある能力の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からは普段から意向を聞いている。また家族を交えたカンファレンスを行い、現所報告、日々の生活を具体的に説明し、それに対しての意見を介護計画に反映させている。	本人・家族の言葉を意向としてとらえ、定期的なカンファレンスやヒヤリ・ハット事例、心身状態の変化等によるケアカンファレンスにより、具体的なサービス内容のプランを作成している。入居者の出来ることに視点をあて楽しく元気に過ごす為のプランや、退院後の食事摂取や不眠対策、立位が出来ることを目標とした話し合い等入居者の日々の状況を把握し、プラン作成に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人ケース記録、カンファレンス、申し送りノートー日二回の申し送りにて情報共有を行っている。介護計画の見直しや実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在も既存サービスの提供を行っているが、コロナウィルス蔓延により延期になっていた訪問マッサージ事業所の訪問マッサージのサービス提供が近々開始予定。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は地域との直接的な繋がりはないが「ささえりあ飽田」からのメールにて地域の情報を随時確認している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が入所時にはかかりつけ医があり特に問題無ければ受診を継続している。その際の付き添いは家族対応をお願いし都合のつかない場合には職員対応としている。訪問診療という選択肢があることも伝えている。	入居前からのたかかりつけ医で継続受診とし、定期受診は家族の対応としているが、送迎などホームでも柔軟に対応している。往診可能な医院への変更もあり、現在は4か所のクリニックからの訪問診療や訪問看護も利用している。口腔ケアについては、協力歯科医と良好な連携が図られており、必要に応じた治療が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と介護職員が協働しているため医療と介護がバランス良く、どちらにとっても安心感を持って業務ができている。訪問診療の際は看護師同士で意見を擦り合わせて、それにより治療方針が変われば柔軟に介護方針も変えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急搬送時の手順については主治医ごとに確認している。搬送先の医師や看護師の求めに応じ十分に時間をもって情報提供を行っている。かかりつけ医や訪問診療医、その看護師とは良い関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所、契約時に終末期についての意向確認を行い、その時点での意向確認書や同意書をいただいている。利用者の状態の変化に応じ、家族と話し合い、今後の方針をその都度確認している。それによる不安な感情についても支援できるよう努めている。	入居時に終末期支援に関するホームの取組などを説明し、その時点で確認した意向や同意を書面で交わしている。今年度主治医、訪問診療・看護の連携を図り、3名の看取りを支援しており、最期は居室を面会や出入りしやすい部屋に移動して行なわれている。移動については重度化への対応として入居時に説明を行っている。	看取り支援後は申し送りの中で振り返りを行っている。今後も本人・家族の思いに応えた支援であったかなど、職員のメンタル面も含めて検討する時間をあらためて持つ事も必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の急変時の連絡網での伝達や方法は勉強会、入職時に確認をしている。小規模多機能ホームと共用でAEDがあるので定期的に使用するタイミング、手順を全ての職員で確認するよう努める。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、水害を想定とした避難訓練を年2回行っており、ハザードマップ等を利用し想定範囲内での最適な避難方法を訓練している。前年度に運営推進会議にて相談、助言をいただいている。	今年度は火災、水害を想定した訓練を2回実施している。火災訓練では夜間想定であったため、誘導などの声が小さくなってしまった事が反省に上がっている。自然災害発生時の避難では、地域の避難所へ向かうより、安全面からホーム内(床より高い畳スペース)で支援や救助などを待つ事としている。個別避難誘導に関して、自力や手引き歩行、車いすなど色分け表を作成し、有事に備えている。	ホーム周辺には新たな住居が建築されており、日頃からの声掛けや挨拶等により徐々に関係性を深めていただき、有事の際の協力者として期待したい。

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	情報提供書や家族の聞き取りなどにより一人ひとりのそれまでの人生の背景を知り、人格を尊重した対応を職員全員が行えるように努めている。プライバシーを損なわないケアも行えている。	管理者は一人ひとりに応じた支援方法を共有し、尊厳やプライバシーに配慮して行うよう伝えている。お風呂という言葉を使用しない事や、同性介助への希望に対応するなど、不快など無く過ごせるよう個別に支援している。身だしなみやおしゃれについては、季節に応じた衣類や保湿剤など家族の協力も得ながら支援している。また、入浴後の整髪や、訪問カット支援も感染症への対策を施しながら適宜実施している。	「入居者に早く慣れて欲しい」「親しくになりたい」の気持ちから、強い口調の方言が聞かれる事もあるとしている。丁寧な方言は入居者の安心にも繋がると思われ、距離が近くなる方言の使用に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主導で決定が行われないよう心掛けている。本人の希望や意見を一番に尊重し自己決定できる生活を送ってもらえるよう努め支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なタイムスケジュールを作成しているため一辺倒な毎日になりがちであるが、一人ひとりの希望があればその言葉を優先し支援を行っている。集団生活ではあるが時に個別対応し寄り添った介護を行えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ワンパターンな装いにならないよう気がけて支援を行い、いつも身だしなみが整っているようにしている。入浴、洗髪後はヘアワックスなど使用して身だしなみがきちんとなるよう配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は見守り等の不安もあるため毎回の実施には至っていない。簡単なおやつ作りをする際はできる能力に応じて切る、混ぜる、流し入れるなどの軽作業を行っていたい。	献立はホーム長がメインや副菜のバランスを考慮して作成しており、米や茶葉をはじめとした食材にもこだわりをもった食を提供している。担当職員を中心に作られる日々の食事は、懐かしい家庭料理や洋風食などメインから小鉢、デザートと品数と美味しさに入居者も楽しみにされている。お節や雛祭り、ソーメン流し、年忘れ4種鍋パーティ(石狩・キムチ・ちゃんこ・トマト)など、季節の料理に加え、庭でのランチやテイクアウト食など目先を変えた食事を取り入れている。入居者は普段の調理に関わる機会は持たれていないが、おやつ作りや食器拭き、下膳など出来る事に関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	豊富な献立によりバランス良い栄養摂取を取っていただけている。食べる量や形態にも注意を払い誤嚥、ムセなど未然に防げるように支援をしている。水分量はチェック表にてその都度記録してトータル摂取量を毎日記載し確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科の協力医院より訪問診療していただき希望者には歯科衛生士の定期的な口腔ケア、磨き方の指導、歯科医師より治療、助言をしてもらっている。関係性も良好で楽しく口腔ケアを行い職員にも一人ひとりの磨き方の指導をしていただき実践している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については一人ひとりのタイミング、その日の水分摂取量などにより変化するためその都度出勤職員と相談し失敗しないよう声掛けし、おむつ使用量の削減にも努めている。自立排泄の方も数名いるが数回に一度は声掛けを行い人格を尊重しながらも清潔保持できるように職員は努めている。	個々の排泄パターンに応じて、声掛け・誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄に努めている。立位が安定しない場合は、安全面に配慮しオムツの使用など、排泄用品や支援方法はその時々で検討している。布パンツで過ごされる方やリハビリパンツやオムツ使用や、本人の希望により夜間のみポータブルトイレを使用される方もおられ、臭気など無いうように清潔に管理されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	活動をしたり水分量の確保に努めている。毎日牛乳を提供したり好みに応じてジュースを提供したりと味に変化をつけて水分量を確保し、できるだけ下剤を使用しないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ユニットごとに曜日を分けて週3回を基本として入っていただいている。そのほか希望があればいつでも入れるように職員に周知している。	週3回を基本として二つの浴槽(大きさ・深さの違い)を使い分け、重度化に備えストレッチャーを新たに備えている。浴室と共に脱衣所の整頓、清潔、使用目的に応じた布巾の使い分けなどを徹底し、気持ちの良い入浴支援に繋げている。菖蒲・柚子湯も継続して取り組んでいる。	入浴の楽しみ方は個々に応じて異なることや、年齢などから体力を要するものになっていることも考えられる。今後も職員との会話を楽しんだり、静かな見守りなど一人ひとりに応じた入浴支援に努めていかれる事を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には本人の希望に応じて休んでいた。時間によっては就寝や起床の声掛けを行うこともある。食後すぐに休まようとする方には声掛けによりおおよそ1時間をめどに起きていただくよう声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内外用薬の有無、確認を行い、また副作用についても職員に全員が理解できるようしている。処方増減、追加などあれば申し送りなどで報告し記録を詳細にすることで主治医にも正しく報告できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を知り、今できる能力を考え声掛けにて業務用品の作成の細かな作業をお願いしたり洗濯もの干し、たたみ、食器洗い、拭き、床の掃除機かけ、モップ拭きなど家事全般をお願いしたりしている。気分転換としては中庭に出てゲームや歌を歌ったり季節に応じてランチ会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は外出自粛を行う。コロナウィルス、感染症予防に努めマスク着用や外出先での手洗い消毒など行いながら戸外に出る計画を立て実施したい。またその際は地域や家族の協力もお願いし安心して楽しめるように努めていきたい。	個々の持つ歩く力を最大限に維持できるよう、中庭の散歩コースを活用し散歩などを支援している。暖かい午前中は体操や歌(懐メロ・童謡など)を歌いながら取り組んでいる。中庭は近隣保育園児との交流の場として、芋ほりなども一緒に楽しんでいる。コロナ禍にあっても紅葉やコスモスを見学し、近隣のコスモス畑へは全員が参加できるよう、回数を増やし実施している。	家族の訪問が控えられており、外出支援をはじめりホームの現状を知る機会も少なくなっている。ドライブ外出に限らず、散歩や日光浴など外気に触れる機会への取組などについても発信することで、安心に繋がると思われる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今年度は外出自粛し、お金を持つ機会もなく、また使用する機会も無かった。普段の金銭管理については家族と施設側で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	例えば夕方から不安な気持ちになり家族の声を求めるような声が聞かれた場合にはすぐに対応している。またその事を家族にも説明協力するように声掛けを行っている。また電話があった際は不安を解消できるよう受け止めて否定されないように助言を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家庭にあるようなしつらは利用者により排除せざるを得ない現状である。そのため壁面飾りにて季節感を出したり、能力のある方に日めくりカレンダーの差し替えをお願いしている。動線上に余計なものが無いように毎日確認し快適に過ごせるよう努めている。	掃除の行き届いた共有空間は入居者と職員が一緒に協力しあって作り上げた作品が明るさを醸し出している。庭先の草花なども眺められ、テーブルやソファに腰かけ、お茶を楽しんだり談笑などゆっくりとした時間を過ごされている。そのため、音楽や掲示物、会話などに努めて季節を取り入れるよう工夫し、感染予防対策を徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は広く天井も高く圧迫感の無い空間で過ごしていただいている。利用者の人間関係を職員が考えテーブル配置、座席の決定を行い快適に過ごせるよう努めている。デイサービスも開始さ通所者と入所者の交流もできるように配慮しテーブル配置を変更した。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の意向に沿って居室作りをしていただいたり認知症の周辺症状に応じてシンプルなしつらえにしたりとしている。本人なりに生活しやすいように自由度は設けているが整理整頓などは声掛けして支援している。	利用開始前にテーブルと椅子、3段ボックスをホームで準備している事を伝え、参考になるよう、他の入居者の部屋を了解のもと案内している。時計やスタンドハンガー、テレビの持ち込みなど、種類や量は様々である。その後も個々の状態に合わせて家族と相談しながら、居室環境を整えている。コロナ感染症発生後は、居室内の消毒など衛生管理に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすを使用する方がおられ、その際でも移動しやすい構造になっている。トイレ内の従来設置してあった縦の手すりに加えて横の手すりも新たに設置し立ち上がりや立位保持に不安がある方のも安心して立ちやすいように考慮した。		